

PART 2 段落と文章の関係

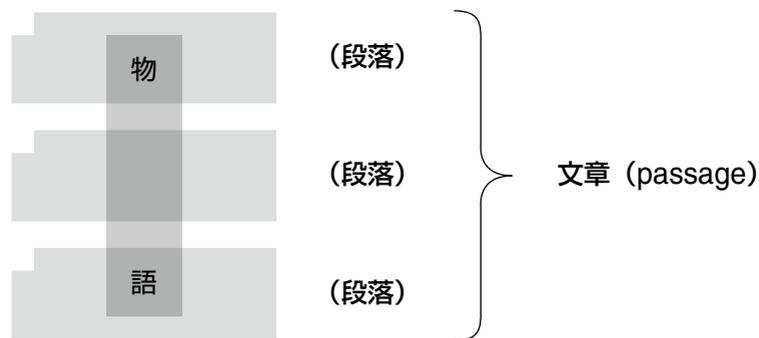
「文章」(passage)は、いくつかの段落が集まって構成される大きな単位です。そこで注意すべきなのは、私たちが扱う言葉の単位が大きくなる(語い⇒文⇒段落⇒文章)につれて、「ルール」に対する例外も増え、また、一言では説明できない、やや複雑な「ルール」が出てくる場合が多くなるということです。このことを忘れないでください。

したがって、個々の「段落」に対してはかなり正確なルールを作ることができますが、「文章」に対するルールは、ある程度大ざっぱなものにならざるを得ません。ですから、「文章」の構造を考えるにあたっては、個々の特定のルールにこだわらず、全体的に大きくとらえていくほうがうまくいくと思います。

それではまず、段落と文章の関係について見ていきましょう。段落と文章の関係は2通りのやり方で考えることができます。

【1】拡大タイプ ▶▶▶ 段落の拡大バージョン

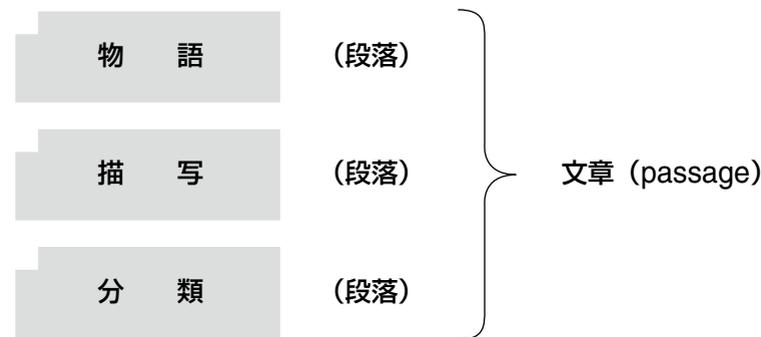
この場合、文章は第2章ですでに述べた段落のタイプ(物語、描写、分類など)のうちのどれかの「拡大版」と考えられます。次の図を参照してください。



このタイプの文章には、明確な「主題段落」(topic paragraph)があるのがふつうです。主題段落は段落における「主題文」(topic sentence)と同じ役割を果たしていると考えてください。

【2】混合タイプ ▶▶▶ 異なるタイプの段落の連なり

この場合、文章は異なるタイプの段落がいくつか結びついて構成されています。たとえば、「物語」+「描写」+「分類」のように異なるタイプをもつ段落が連なったような、いわば「混合タイプ」です。



このタイプの文章には【1】とは違って明確な「主題段落」(topic paragraph)がない場合がよくあります。見てわかるとおり、【2】のほうが複雑ですし、長い文章においては、むしろこの構造になりやすいのです。もちろん段落のタイプの組み合わせは無数にできます。

拡大タイプか混合タイプかを決めるにあたっては、段落間のつながりがどうなっているか(統一性があるか)を見ることも大事です。各段落の末尾の文と冒頭の文を見て、お互いにどのようにつながっているかを確認すれば、おおよそのつながりはわかります。たとえば、ある段落の末尾のある語ないしは句が、次の段落の冒頭の文のなかで繰り返されていれば、拡大タイプである可能性が高くなります。

【3】文章は段落がつくり上げるピラミッド

また、文章を理解するためには、それを適切に要約できなければなりません。大学入試では要約問題は一般的ですし、TOEIC®やTOEFL®、英検などの試験においても、特に要約問題の形をとってなくても、明らかにそれに類する内容把握力を問うている設問があります。

そのためには、次の2つのことが必要です。